



市埋蔵文化財センター
☎ 23-8020

①

DEKI DEKI たいむとらべらー

古代の装飾品「勾玉」まがたま

皆さんは「勾玉」を知っていますか？

「勾玉」は古代の日本における装身具の一つで、主にヒスイ・めのう・水晶・滑石などの石を削って作られたり、土を形作って焼いて作られたりしています。多くの「勾玉」は、Cの字型・くの字型・コの字型にわん曲し、玉から尾が出たような形をしています。

では、なぜそのような形をしているのでしょうか。



勾玉は古代人のおしゃれなお守りでした



- ① 動物や魚の骨などで「魔よけ」として作っていたものを石などで作るようになった
 - ② 月を神様としていた時代、その月の形を身につけるようになった
 - ③ 生命の象徴として、母親の胎内にいる初期の胎児の形をあらわしている
- いづれも「魔を避け、幸運を授かるもの」として作り、身につけられました。
- 今で言うところ、ちよつとおしゃれな「お守り」ですね。
- 勾玉づくりは、埋文センター体験学習もできます。

こみゅにてあたいむ

10 杯目

元気なコミュニティ100選

浄法寺の門崎地区は、高齢化などにより集落が廃れていくという危機感から、若者が帰ってくるむらにするにはどうしたらいいのか議論を重ね「門崎むらづくり推進協議会」を設立しました。旧浄法寺町の南の玄関口という意味と、縄文のいにしえから人々が暮らしてきたという想いをこめ「浄門の里」をキャッチフレーズに、むらづくりを進めてきました。

「自分たちの住む村は自分たちの手作り」という考えのもとに、農村公園、四阿（あずまや）、JRバスの停留所、安比川の散策路など環境整備に次々と取り組んできました。また、かつて交流の場で生活のよりどころでもあった水車小屋を復興し、伝統的な山村の食生活を復活させました。さらに炭窯も建設し、自家燃料として利用するほか、生活排水路に炭を敷き水質浄化にも努めました。

このほど完成した「浄門の里コミュニティセンター」は地域にあった冷泉を引き、共同浴場を備えています。建設に際して、設計から施工

まで、ほとんどが地域住民の共同作業により行われました。

また、盛岡市の月が丘一丁目町内会と協定を結び、イベントの参加の協力、体験スポーツ交流などを行い、交流人口の増加を図ることとしています。

これらの活動により、地域全戸数19戸のうち3戸で若者が帰ってきて担い手農家として頑張っています。また、共同作業や行事などを通して住民同士のきずなも深まりました。

若者が帰ってくるむらにするために始まった地域の取り組みが今、実を結ぼうとしています。



3月20日、念願のコミュニティセンターが完成

注) 同協議会は3月に「浄門の里づくり協議会」に名称変更しています。

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課（内線653）まで